

香川大学のエンロールメント・マネジメント実現に向けた 業務システム内製開発と業務システム連携の取り組み

久我 透

香川大学 情報化推進統合拠点 DX推進研究センター

1. はじめに

- 香川大学では、「令和6年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択され（支援2：一般枠），**高度情報専門人材育成(DX人材育成)**を推進している（図1）
- IT人材不足が深刻化しており，大学には社会人を含めた多様な学習者への教育機会提供が求められている
- エンロールメント・マネジメント（EM）は，学生募集から在学支援，卒業後までを統合的に支援する大学経営手法である
- 本研究では，高校生だけでなく社会人や他大学出身者まで対象を拡張し，**アルムナイ活動やリカレント・リスキングを含む循環型ライフサイクル**をEMの対象として定義した（図2）
- IR（Institutional Research）に基づき，この循環型ライフサイクル全体を支援するEMの実現を目指している



図1: 香川大学高度情報専門人材育成 (DX人材育成) 事業

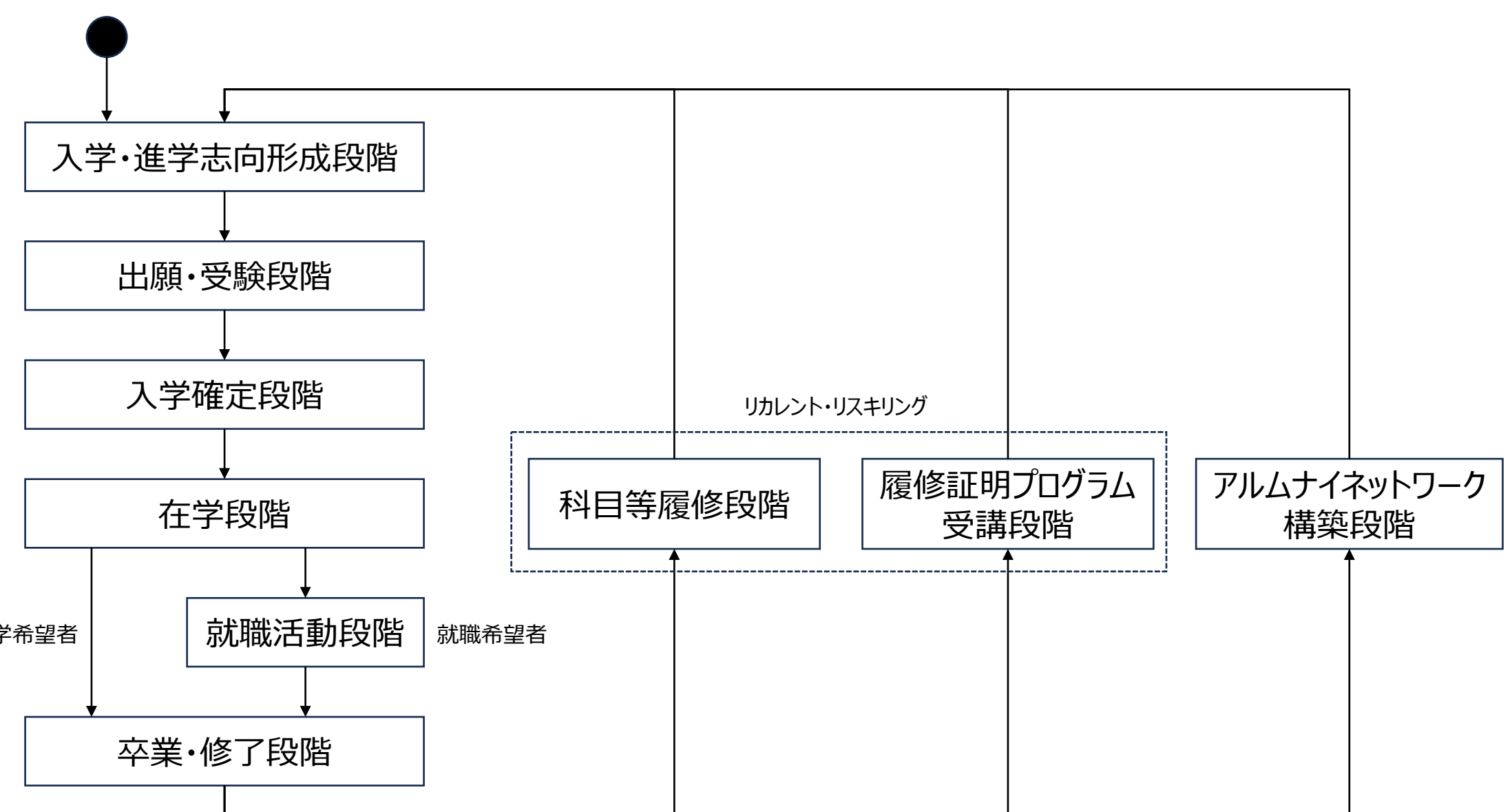


図2: 本研究で目指すエンロールメント・マネジメントのライフサイクル

2. EM実現のためのシステムアーキテクチャ

- 香川大学では，教務システム「Campus-Xs」をEM実現のための中核システムとして位置付けている
- Campus-Xsに蓄積された学生情報を利活用するため，システム連携用APIを開発している
- 学内の業務システム群をIPAが提案した「スサノオ・フレームワーク」に基づき，**SoR（System of Record）**，**SoI（System of Insight）**，**SoE（System of Engagement）**に分類している（図3）
- 安定性が求められるSoRと，柔軟性・俊敏性が求められるSoI・SoEを分離**することで，基幹システムの安定運用と迅速なサービス開発を両立している
- 本アーキテクチャにより，EMライフサイクル全体を支援する業務システムを継続的に開発可能な基盤を構築している（図4）

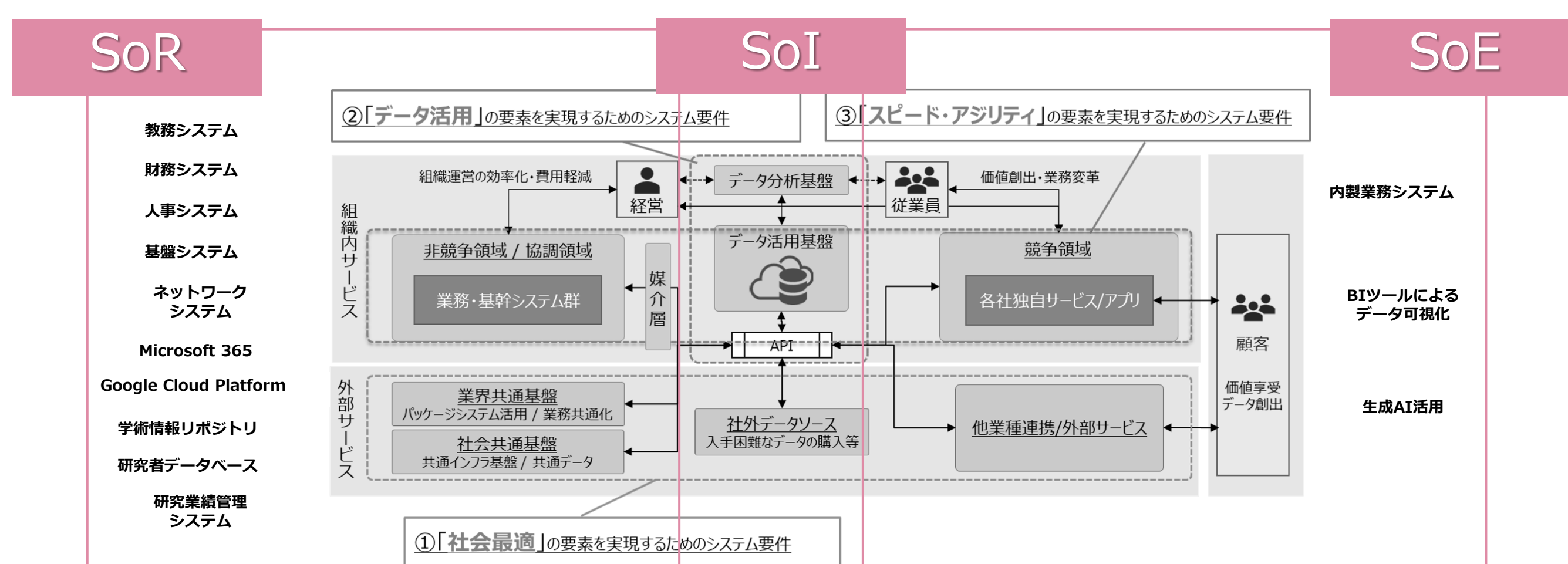


図3: あるべきITシステムを実現する技術要素群「スサノオ・フレームワーク」（DXを実現するためのITシステム像）

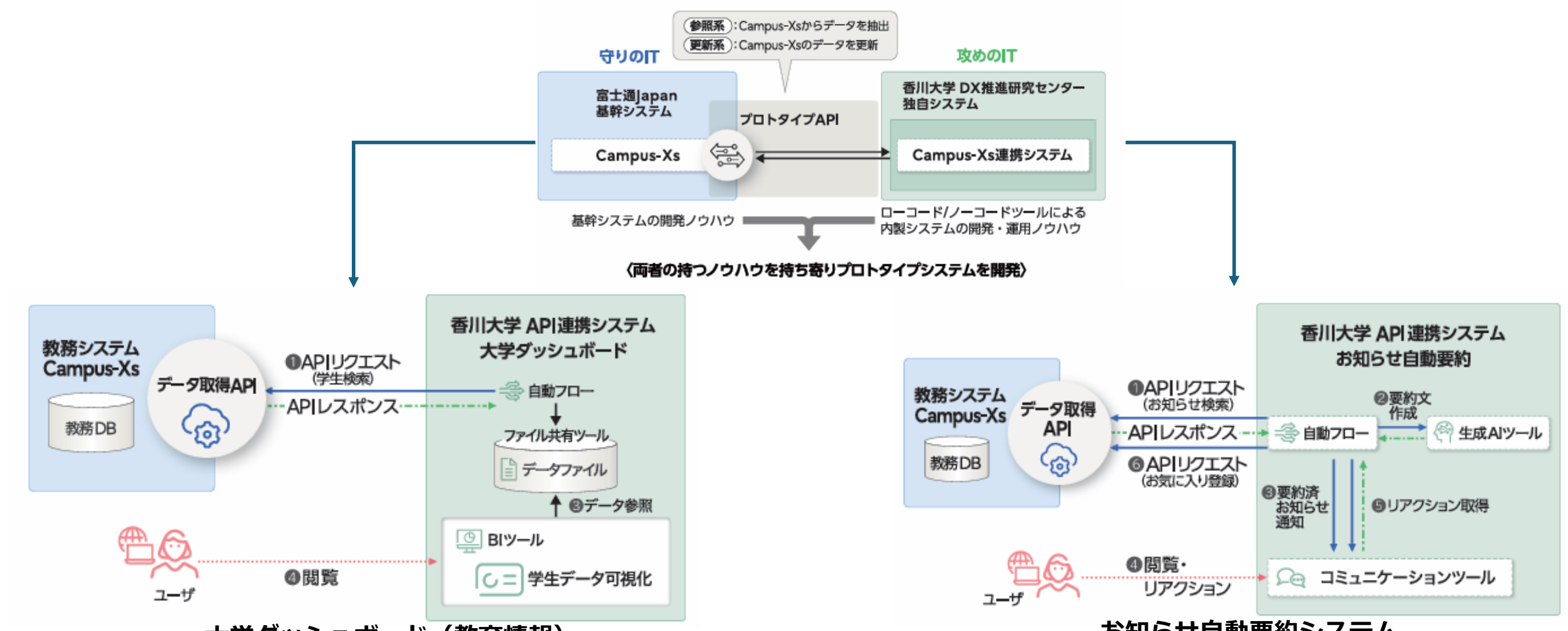


図4: 教務システム「Campus-Xs」と連携したシステムの概念図

3. EMライフサイクルを支援する業務システム内製開発事例

- 香川大学DX推進研究センターでは，Microsoft Power Platformを活用した業務システム内製開発を推進している
- 柔軟性・俊敏性が求められる**SoIおよびSoE領域を主な開発対象**としている（図5）
- EMライフサイクル全体を支援するため，**13件の業務システムを開発**している（図6）
- 開発したシステムは，入学検討段階から在学中，就職活動，卒業後のアルムナイ活動等全体を対象としている
- さらに，共通APIを介してシステム間を連携することで，新たな価値創出を目指している



図5: 内製開発したシステムの実際の画面

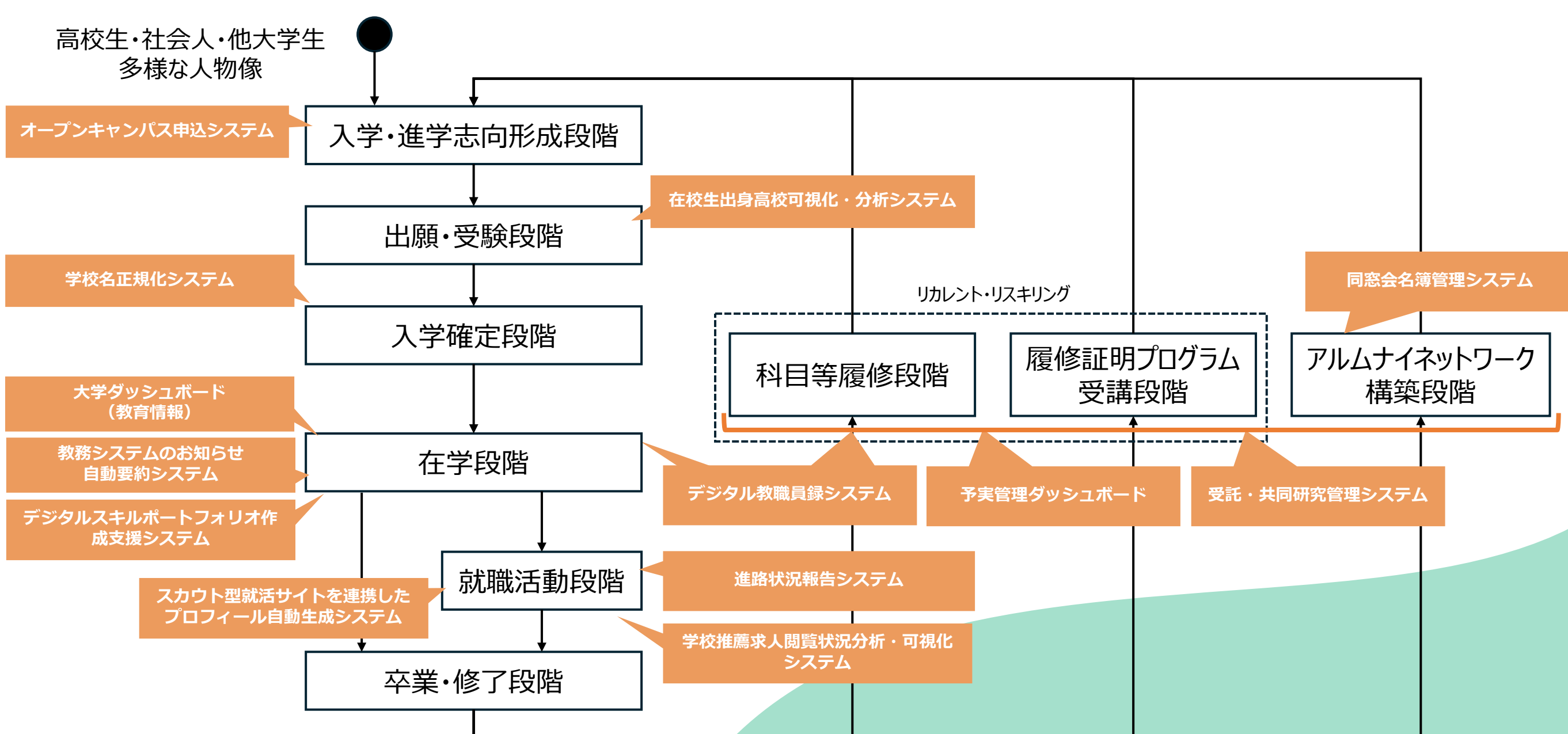


図6: EMを支援する業務システム内製開発事例（13件のマッピング）

4. まとめ

- 香川大学では，高校生だけでなく社会人を含む多様な学習者を対象としたEMの実現に取り組んでいる
- SoR/SoI/SoEの考えに基づき，教務システムをSoRとしたシステムアーキテクチャおよびAPI連携基盤を構築した
- SoI/SoE領域を対象として，EMライフサイクル全体を支援する13件の業務システムを内製開発した
- 業務システムの内製開発とシステム連携により，入学前から卒業後までを一貫して支援するEM基盤の構築を進めている**